

第2回太子町地域公共交通会議 会議概要

日 時：平成30年8月28日（火） 10時00分～12時00分

場 所：まちづくり観光交流センター 1階研修室1・2

議 題

- (1) 住民アンケート（案）について
- (2) 住民ワークショップ概要（案）について
- (3) 先進事例視察について
- (4) 路線バス利用実態調査について
- (5) その他

(1) 住民アンケート（案）について

(資料1～6に基づき、事務局より説明)

委 員	今回の住民アンケートの対象は、資料3に「全世帯（年代による振り分け）」とあるが、年代による振り分けとはどういう意味か。
事務局	基本的に各世帯に1通のアンケートを送る予定だが、母数に近い構成になるように属性を振り分けながら、各世帯に送付したいと考えている。
委 員	家庭の中のある一人が回答するのでは、その家庭の正確な状況を把握することにならないのではないか。
会 長	各家庭のある一人の方に宛ててアンケートを送るので、その方が個人として答えることになる。そこの家族全体の状況を聞くアンケートではない。
委 員	家庭の全員の動向がわかるアンケートの方がよいのではないか。
事務局	全数に対するアンケートにすると、各家庭で記入状況がまばらになり、結果的に回答数そのものが全体として減る可能性がある。そうしたことも考慮し、送付は各家庭に1通とし、かつ住民の全体像を把握するために、回答者の年

代を母数と同じ形になるように振り分ける形とした。

全員への送付も当初考えたのだが、最終的な結果としてより良い形になることを考えた。このアンケートをきっかけに、各世帯で公共交通に対する意識を上げてもらい、今後のワークショップにも繋げていきたいと考えている。

会 長

アンケートを悉皆で行うか、部分で行うかだが、例えば我が国で悉皆調査は国勢調査だけ。それ以外は抽出でアンケートを取っている。全数調査を行ってすべての回答が返ってくれば、本当に知りたいこともわかるが、全数に送ってそれが返ってこない場合、むしろ分析上でデータの扱いが非常に難しくなる。だから私としては、抽出方法で確実に回答を取ることをお願いしたい。

確かに交通行動は、個人に帰着する部分と、家族構成によって行動が変わる部分があるので、アンケートで把握できない部分があるかもしれない。しかし、今後ワークショップも予定されているので、アンケートで客観的に把握できない部分は、ワークショップ等でじっくり聞いていき、それらが合わさって本当の住民ニーズが汲み取れると思う。

大量にアンケートを取ると、集計に時間がかかるということもある。

委 員

回収率はどれくらいを想定しているのか。

事務局

去年、地域公共交通基本計画を策定する際に行ったアンケートでは、回答率が約 43%だった。今回は公共交通空白・不便地域に送るので、より興味を持たれている可能性もあり、去年を上回ればと考えている。

委 員

回答率は 80%を目指してほしい。太子町は高齢化が進んでいて、高齢家庭では、回答もなかなかできないだろう。回答率を上げるための方策をどう考えているか。

事務局

現状では、郵送による送付と回収を考えている。もしポストに投函できないと連絡をもらえば、対応を考えたいと思う。

委 員

有線放送を使って、回答を郵送することを何度も伝えるのが有効では。

事務局

それはよい方法だと思うので、持ち帰って検討する。

会 長	<p>こうしたアンケートで有効回答率が40%を超えているのは、かなり良い方。ただ、難しいのは、回答しない人をどう見るか。一番厳しい見方をしたら、アンケートを返してこない人は、全員バスは不要と評価することもできる。アンケートに答える人は、関心があるということで、答えない人は無関心だと考えることもできる。環境評価や文化財の評価でアンケート調査を行うときに、回答が返ってこなかった率を係数として掛けて、それで価値を減殺するという手法もある。</p> <p>いずれにせよ、40%超は優秀ではあるが、まずは繰り返し広報するなど、できるだけ回答率を上げる努力をしてみしてほしい。</p>
事務局	<p>補足だが、資料3に対象地域として、①1,120世帯と②1,150世帯と書いてあるのだが、世帯分離をしていて同じ所に住んでいる場合は、そこに対して1通だけ送るので、少し送付数が減る可能性があることを了承いただきたい。</p>
委 員	<p>対象地域が、どのように指定されたのか知らないが、畑・山田地域が対象になるのなら、ここに太子ヶ丘を入れてほしい。ここは公共交通空白・不便地域なので、ここの意見も反映してほしい。</p>
事務局	<p>太子ヶ丘については、基本計画で公共交通空白・不便地域に入っていないので、網形成計画でも公共交通空白・不便地域の対象外になるが、太子ヶ丘地域も高齢化が進んでいることは把握しているので、今後環境の変化によって対象にしていくことも考えていきたい。</p>
委 員	<p>前回のアンケートの回収率は、畑・山田地区と聖和台・磯長台地区は別々に出ているのか。</p>
事務局	<p>基本計画のアンケートは、別々に集計はしていない。</p>
委 員	<p>アンケート中の図で示されている基幹交通について、畑・山田地区の方は、基幹交通は「並行して検討中」と示されているが、聖和台地区の方では支線交通は「並行して検討中」という文言が入っていない。これは支線交通が何も協議されていないので、あえて外しているのか。後で検討するというイメージが持たれないと思うが。</p>
事務局	<p>入れ忘れていたので、統一する形で修正する。</p>

委員	<p>聖和台地区へのアンケートの問 12 で運賃について聞いている。この地域の基幹交通としては金剛バスが走っていて、運賃は距離に応じた形になっていると思う。路線バスが片や距離に応じた運賃で、片や一律 100 円だとしたら、運賃に不公平感が出てくるのではないか。この問い自体にも疑問を感じる。</p>
事務局	<p>基本的には指摘のとおり。ただ、これについては、新しい路線に対してのアンケートで、利用する場合の運賃としてどの程度を想定するかを聞いている。金剛バスとの運賃の差を意識したものではない。</p>
委員	<p>アンケートを実施して、100 円という回答が多数を占める結果となった場合、新しい路線の周囲の住民は、100 円に設定されると期待するし、旧来の路線バスの利用者からも 100 円にしてほしいという要望も出てくる。それで金剛バスがそれでは運営できないとなると、後々問題になるのではないかと心配になる。この質問は精査してほしい。</p>
会長	<p>私の考えでは、新しいサービスに対して支払い意思がどれくらいあるのかを聞くのは普通だと思う。仮に 100 円という回答が多かったとしても、それは今後社会実験をする際の一つの目安であって、そこから利用者数や収益、費用、持続性を考えて、実際に適する運賃を算出することになるだろう。だからアンケート結果で示された運賃に引っ張られて最終的な運賃が直接的に決まってくることはないと考えている。</p>
委員	<p>バス路線の案を決めるときもそうなのだが、アンケートである回答・意見が多数を占めると、それが実現すると捉えられる。そしてそれが実現しないと、アンケートの結果と違うとして住民の不信・不満になるのではないかと気になる。</p>
会長	<p>それは問 12 だけでなく、他の項目でも同じことが言える。回答者は最大の希望のところをチェックする。それがそのまま実行できるかどうかは、今後の実証実験の結果等を踏まえて検討されることになる。</p>
委員	<p>新しい路線についても、金剛バスが今までと同じ形で運行するのか。別の交通事業者が運行するのか。また、デマンドバスなど、まったく新しい形態で運行するのか。どういう選択肢があるのかを知りたい。料金についても、どういう形態かによって違ってくるだろう。</p>

- 委員 私は福祉センターが主催する送迎サービスに携わっているが、こういう活動も参考にしてもらいたい。
- 会長 アンケートを取ると、運賃などはどうしても安い方に引っ張られるが、それは今後の検討プロセスで調整していく必要がある。地域の人たちがどういうニーズを持っているかといった情報をアンケートで抽出して、今後の網形成計画、実証運行に持っていくためのデータソースにしたいと思う。
- 委員 今回、公共交通空白・不便地域を対象にしているとのことだが、葉室の方は路線バスの行き先が違う。その意味では、畑地域の方がむしろ公共交通空白・不便地域に入らないと思う。その他の地域にも交通困難地域がないのか、目を向けてほしい。
- 会長 町域すべてを見ておきたいというのはよくわかる。ただ、今回は重点的に2つのゾーンを見ていくということ。例えば基幹交通でいえば、聖和台・磯長台で社会実験を行い、商業施設に繋げるということになれば、葉室地域にも延びてくることもあり得る。逆にいうと、聖和台など基幹のところにニーズがないと、葉室にも延ばせなくなる。そういう意味で需要の束になっているところを今回の対象とし、そこにバスを走らせたときに、一定以上の収益が上がるかどうかを確認するためのアンケートである。その点を理解してもらい、まずは2つのゾーンを重点的に調べることにさせてほしい。
- 今走らせているような大きなバスを運行するのだったら、走れるルートは限られるし、マイクロバスのサイズだったら、もう少し細かなところまで入って行けるだろう。さらに小さな10人乗りくらいのワゴンだったら、さらに細かく走れるということで、車の大きさによってもルートも、サービスの内容も変わってくる。まずは、これらのゾーンを検討するというので、よろしくお願ひしたい。
- このアンケートは情報収集が目的で、かつ公共交通という空間を扱うサービスを対象としているので、アンケート結果がそのまま直接サービスの形になるのではない。アンケート結果を踏まえて現実的なところへの落とし込みを、今年度にしっかりと行っていく必要がある。
- 今後できるだけ早く実証運行に移していくことを目指すが、その実証運行も、一つの形だけを実験するのではなく、実証期間中に運賃を上げたり下げたり、バス停の位置やルートを変えてみるなど、いろいろな検証ができるようにして、最もよい形態を考えていきたい。

では、もし異議がなければ、住民アンケート（案）は承認されたということにしたい。

委員一同 (賛同の拍手)

(2) 住民ワークショップ概要（案）について

(資料7に基づき、事務局より説明)

委員 ワークショップとこの委員会の関係は、どういう位置づけになっているか。

事務局 ワークショップは地域の方で議論いただき、その結果を交通会議に報告し、最終的に網形成計画に反映する。

会長 一般的にワークショップはアンケートと同じで情報収集の場。ワークショップの場で何か帰結することはない。この会議にすべての情報が集まって、アンケートやワークショップの結果等を受けて、実証運行の一番最初のモデルを作っていく。

委員 畑・山田地域と聖和台・磯長台地域だけのワークショップになっているが、当初5回ワークショップがあるとっていたのは、このワークショップを指しているのか。

そうだとしたら、これら以外の地域の意見反映はどのように行うのか。

事務局 今回のワークショップは、公共交通空白・不便地域を対象としている。その中で出た意見を今後の網形成計画・実証運行に反映していく。実証運行を行う中で発生するいろいろな状況から、全体的な意見も反映されていくと思う。

委員 2地域以外はアンケートも取らないし、直接住民が意見反映する場も一度もない。決まった段階で知らされるだけでは、地域住民の意見反映はどこでしたらよいのか。

事務局 そうした点も含めて、前回の基本計画策定にあたりアンケートを取らせてもらった。その経過を経て基本計画を策定し、今回公共交通空白・不便地域として、畑・山田と聖和台・磯長台の2地域を対象としてアンケートとワーク

ショップを行うこととなった。その後、実証運行を重ねながら、その中で利用状況を把握し、実際の運行形態を決定していくことになると思う。

委員 網形成計画の案が決まったら、実証運行の計画も含めて地域に対して説明会をすべきだと思う。地域に関心を持たなければ、利用するにもバス停の場所さえわからないということになる。地域住民に関心を持ってもらうためにも、住民が意見反映のできる説明会を開催してほしいと思う。

事務局 実証運行の段階で、ルートやバス停の位置が決まってくれば、バス停を置く地域に対しては住民説明会が必要であると考えている。
ただ、ワークショップについては、基本計画において公共交通空白・不便地域として、畑・山田、聖和台・磯長台地区を定めて、ここを重点的に扱うということを去年の委員会でも同意を得て決定しているので、まずこれらの重点地の意見を吸い上げることが必要になってくる。

委員 私は観光関係で役を担っているが、観光も交通網も太子町全体の話という意味で同じだと思う。観光においてもいろいろイベントを行っていて、関係している者は懸命に取り組み、案内もしているが、太子町全体で見ると、一部の人間が勝手にやっているという見方をしている人もかなりいると思う。だから交通網の話も町全体のことなので、町民の皆が、町が交通網のことに取り組んでいるとわかるように、進捗状況を公開してあげなければいけないと思う。だから対象地区が畑・山田地区と聖和台・磯長台地区だというのはわかるのだが、町全体に交通網の取り組みについて関心を持てるように、状況を公開し知らせる必要があると思う。

会長 実証運行の手前では、ここに挙げられているワークショップとは別にワークショップを開催しないといけないと思う。バス停も地域によってポイントがあると思うし、数のバランスも取らなければいけないので、生活している人たちに意見を聞いて進めていかなければならない。この点については、また段階が来たらしっかり取り入れていきたいと考えている。

委員 先ほどの説明でワークショップは25人程度とのことだったが、それはどのようにして人数を絞り込むのか。
もし定員から溢れた場合、ワークショップに持ち込む意見を聞き取るなど、何か対応しないと不満がたまるのではないか。

事務局	<p>ワークショップの人数が限られているのは、4～5人のグループに分かれて議論してもらう関係で設定している。もし何か意見をお持ちなら、今傍聴に来ている方も、周りの方もぜひ参加してほしい。</p> <p>ただ、それで希望者が増えても実際100人、200人で行うのは厳しいが、30人くらいまでは増やせると思うので、意見がある方には積極的に参加してほしい。</p>
委員	<p>高齢者や障害者も参加できるように配慮してほしい。</p>
事務局	<p>参加を希望される場合には、何らかの対応を検討したい。</p>
会長	<p>委員の方々に一つ聞きたいのが、ワークショップの会場が万葉ホールでいいのかということ。一般的にワークショップは地域に出向くもの。対象地域が一つでないので、公平を期すために万葉ホールにしているのかと思うが。それから、一般的にはワークショップには人が集まらないものだが、定員は30人くらいあってもいいと思う。</p> <p>あと、応募に手続きがいるというのは、申し込みにくくする要因になる。申し込んだが急に来られなくなる人もいるだろうし、逆に当日急に空いて来られるようになる人もいるだろう。それなのに、事前の郵便申込みで先着順だったら、当日の飛び入り参加は不可能ということになる。定員が設定されているから、応募方法が示されているとは思うのだが、もう少し参加の敷居を低くすることはできないかと思う。</p>
委員	<p>山田地区に集会所があるので、そこで開催すれば、必ず人が集まるのではないかと。</p>
会長	<p>30～40人規模が入る場所が確保されるのであれば、できるだけ地域住民に近い場所で開催する方が、参加しやすいと思う。</p>
事務局	<p>参加手続きについては、定員を設けている関係上、申し込みする形にしており、その案内を広報に挟み込んですでに配布を始めている。場所については検討する。参加者には開催に関する通知を送付するので、もし場所が変わることがあれば、場所変更についてもその通知に記載する等の対応をとる。</p>
会長	<p>すでに広報を配布しているのであれば、次回以降に、今提案した件は検討してほしい。</p>

- 委員 私は障害者団体の代表をしている。この計画について、初めから話を聞かせてもらっているが、こうして皆が集結してたくさんの意見を出して話をまとめているということを知らない人が、町内にたくさんいる。こういう大事な話を皆に聞いてもらおうと思ったら、各集会所に行って、話をして意見を出してもらってまとめることをしていかなければならない。家に車がない人は関心が高い。自分たちが使うのだから、皆で盛り上げていこうという気持ちになってもらう必要がある。将来的に歳をとったら車に乗れなくなるなど、車に乗れない状況は様々あるだろう。だから、他人事でははく、自分のこととして関心を持ってもらうようにする必要がある。
- 私は奈良の當麻の福祉センターへよく行く。そこにはコミュニティバスが3台くらい運行されている。便利なので子ども高齢者も集まる。
- このように皆に便利と感じて使ってもらえれば、満足感も高い。だから、細かい意見を聞いて吸い上げていくことも大切だと思う。
- 私はこの計画の話を聞いて免許を返上した。これから大切な時期だと思う。ぜひともこれを実現できるようにお願いしたい。
- 委員 ワークショップは、聖和台・磯長台地区だったら、各地区集会所の2か所で開くべき。人数は制限すべきでない。希望者全員に参加してもらって、それをこなすくらいの構えを持たないと、満足なものではないと思う。1回のワークショップの人数は決めざるを得ないだろうが、それでこぼれたら次にまた開催する形にすべき。
- 会長 今話を聞いた私の考えとしては、聖和台と磯長台は分けてほしくない。おそらく年齢構成もこの計画に対する意識にも違いがあると思う。もし2か所で開くのなら、午前の部・午後の部の形に分けて、都合のよい方に来てもらうようにして、多少は2つの地域の人が混じって、温度差があるのなら、その調整をしていくべきだろう。やはりこの2つの地域一帯で進めないと、この部分の計画の実現は難しいのではないかと思う。自治会は別かもしれないが、交通に関しては一緒に取り組んでほしいと思う。
- 委員 ワークショップとは、解釈すると緊急集会ということだと思う。この集まりには公共交通委員は必ず2名参加するのか。その分、一般町民の参加率は減るのか。

事務局	<p>委員に入ってもらえればありがたいと思う。ワークショップはグループに分かれるので、グループの進行役などしてもらってもできると思う。</p>
委員	<p>委員はそれなりに勉強して計画のことを認識している。だから、ワークショップはこの計画をよく知らない人に認識してもらおう機会にしてほしい。</p> <p>聖和台地区の人たちは、役場の方に向かっていくよりは、太子町の外に向かっていく交通の方に関心がある。</p> <p>アンケートの問5に「上ノ太子駅、喜志駅をどの程度利用していますか」という設問がある。路線バスは金剛バスのことだと思うが、駅の利用時はほとんどが自家用車による送迎だと思う。しかし、今運転できていている人も、将来病気などによってどうなるかわからない。それで運転できなくなってから乗り合いバスがほしいと思っても間に合わない。ところが、40～50代の人にはほとんど興味がない。今から動き出して、早く実現する必要がある。私は2年以内に実現してほしいと思う。</p> <p>公共交通の問題は全国的な問題。河内長野では、2019年を目処に自動運転のタクシーを走らせる実験を計画している。</p> <p>太子町は住民が公共交通の問題を認識していくためにも、ワークショップは希望者が全員参加できるようにすべきだと思う。</p>
会長	<p>ワークショップはある程度人数を制限しないとできない。</p> <p>私は前の会議のときにも話したが、住民の要請があつて、場所が確保されて、時間調整ができれば、私でよければいつでも説明に出向く。</p> <p>先ほど、葉室地域や他の地域はどうするかという意見も出たが、地域でまとまって話を聞きたいという要望があるのなら、事務局に伝えてもらえれば調整する。委員の方も可能であれば一緒に行ってもらって、地域の方たちにアドバイスしてもらえればいいと思う。</p> <p>ワークショップは計画の中で位置付けられたものだが、そこから外れるような活動があつてもよいと思っている。委員の方は地域の代表なので、地域への呼びかけをしてもらってもいいと思う。それに関する活動は、私は引き受けるつもりでいる。</p>
委員	<p>要請があれば説明に来てくれるという情報を事務局から発信する必要があるだろう。</p>
会長	<p>機会を平等に与える必要はある。その機会を使うかどうかは住民の判断。できれば15人単位くらいで集まってもらえれば、今までの経緯を説明していく。</p>

地域の人の考えもあるだろうから、自分が参加しているのであれば自分がそれを吸収して、個人の意見ということ踏まえて、ここで発言することもできる。盛り上がっている地域があったら、事務局に伝えてほしい。

ワークショップはすでに告知を始めているので、10月7日に一度この形で開催し、その結果を踏まえて2回目以降を考えていきたい。また、畑・山田地域での開催はまだ少し先の日程なので、どこでどういう形で開催するのが一番人が集まるのかを考えていく、ということで、この件はよろしいか。

委員 10月7日のワークショップも定員を25人で切らないでほしい。

会長 もし10月7日の希望者が25名を超えた場合、多少のオーバーならすべて受け入れて実施するのか、オーバー分の定員は一旦切るのか、事務局と私に一任させてもらいたい。できる範囲で要望に沿えるよう検討する。少なくとも、10月7日のワークショップについては、一旦これで承認いただいたということで、お願いしたい。

委員一同 (賛同)

(3) 先進事例視察について

(4) 路線バス利用実態調査について

(資料8、9に基づき、事務局より説明)

会長 まず神戸市の住吉台くるくるバスの視察について、意見等があったらお願いしたい。

委員 何時に出発か。

事務局 朝9時半頃に役場を出発し、10時半～11時くらいに現地に到着する。

会長 日程もだいぶ先なので、委員の方々の予定の調整をお願いしたい。
路線バス利用実態調査は、平日と休日の各1日、終日行われる。金剛バスの利用状況から人の動きを読み取るということと、現在検討しているバスは、金剛バスとともに公共交通を拡大・活性化していくという取り組みなので、金剛バスと乗車客の取り合いにならないように配慮が必要となるので、そのためのデータ・情報収集として実施するものである。

これについて意見等はないか。

なければ、次の議題（５）その他 について、事務局から何かあるか。

事務局

特に事務局からの案件はない。

委員の皆さんから、今日の議題全般について何か意見があればお願いしたい。

委 員

地域の交通ということで、いろいろ議論いただいている。一方で網形成計画をこの１年で策定していくことになるが、この計画の中には事業が入ってくるので、公共交通空白・不便地域の解消や持続可能ということでいかに住民に公共交通を利用してもらうかという取り組みも、その事業の中に入れてもらうことになると思う。例えば小学校でバスの乗り方教室を開くとか、モビリティマネジメント行うなど、いかにして車から公共交通へ移行するかという取り組みなども、網形成計画の中に、今後入れてもらうことになると思う。そうした利用促進策について、委員の中には観光関係者や商工会の方なども入っているので、そうした方々との連携で公共交通をうまく利用することを事業に入れていただきたい。地域の交通網の充実は、地域の方にとっては悲願であろうから、今後引き続き乗ってもらう施策も事務局で検討してもらうようにお願いしたい。

会 長

バス路線ができて、空気だけ運ぶことになるということはあるとはならない。利用促進、需要喚起がうまくいけばいくほど、住民が乗りやすいバスになるだろう。そのための施策を事務局も考えていかなければいけないし、各委員においてもアイデアがあれば次回以降の会議で発言してほしいと思う。最後に、こうした取り組みは住民と共有しなければいけないし、共有して気持ちも一つにならないとうまく進まないと思うので、地域単位で説明会や勉強会をしたいという希望があったら、事務局に伝えてほしい。できるだけ自分が出向きたいと考えている。

事務局

９月から金剛バスの時刻表が変更になる。喜志駅発と上ノ太子駅発の時刻表を広報に掲載している。各バス停の時刻表については、現在HPをリニューアル中なので、各バス停で見ってもらうか、金剛バスに問い合わせしてほしい。

会 長

近鉄駅に到着してからのバスのアクセスが改善されているとのこと。委員からも周知してもらえるとありがたい。

では、これで第２回交通会議を終了する。

以上